

41年1月号

【第54号】

発行所

編集発行人

大分県・日田・中津江村

川津一人

1 月

何となく

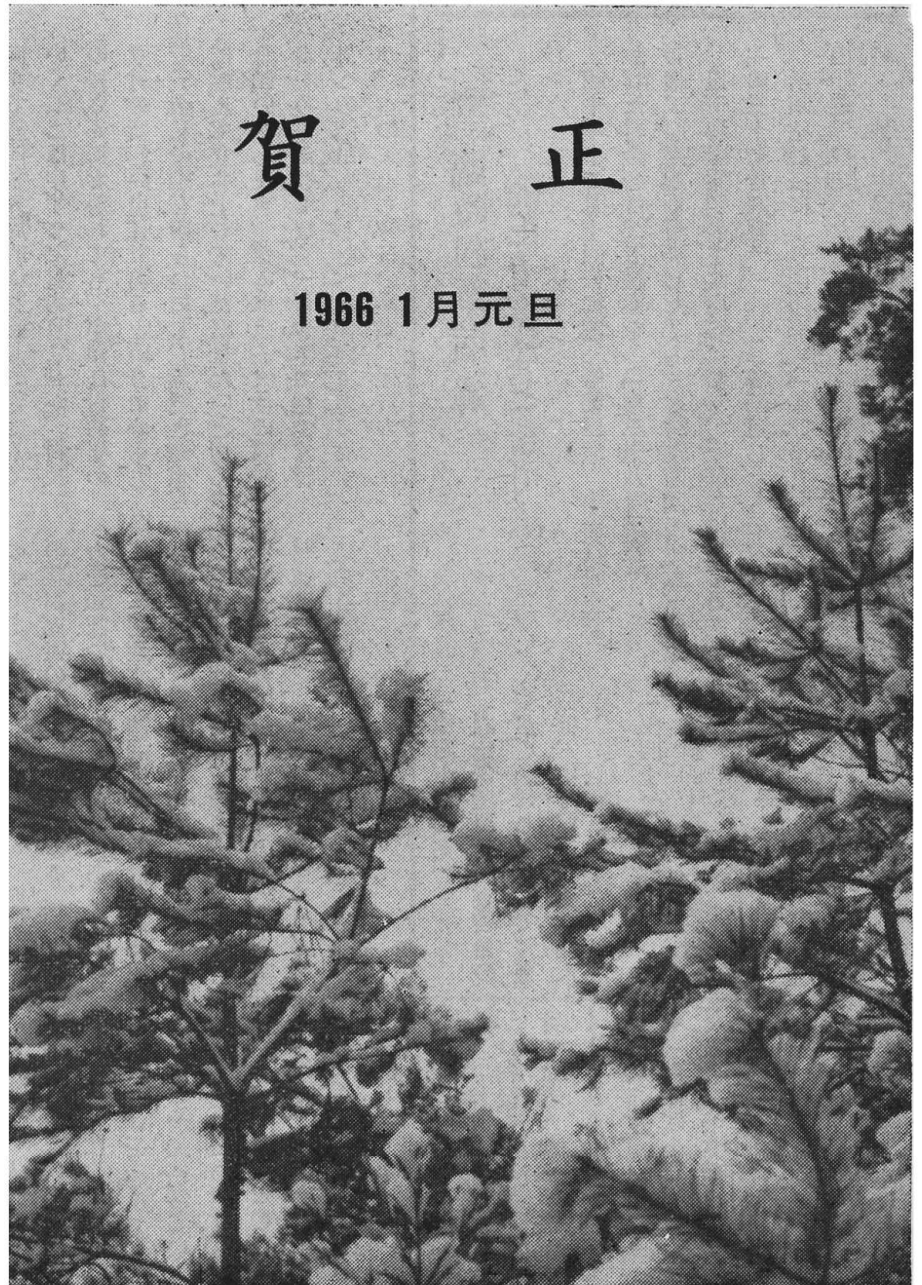
今年はよいことある如し

元日の朝晴れて風なし

これは石川啄木の歌であるが、人生の苦難に痛めつけられ、現実の世界に失望しながらも、なお明日への希望に生きようとする啄木の新しい年に対する願いが察せられる。

昨年は国をあげての不況と物価上昇のあらしに吹きまわれ、その影響は静かな山村にも波及した。その上、思いがけない冷害やイノシシの被害にも見舞われた。

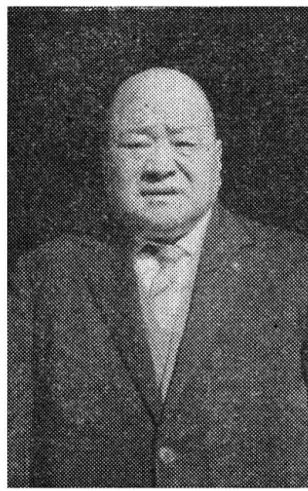
新しい年こそ、不況の克服と物価安定の年であるようわれわれの願いは切実であり、期待は大きい。新春を祝福すると共に気分を一新し、村民の総力を結集して、力強くその第一歩を踏み出したいものである。



賀 正

1966 1月元旦

年頭にあたりて



村長 児塔 務

村民の皆さんにおかれては、めでたく新しい年を迎へられ、先づは喜びにたえない次第でございます。
昨年は皆さんがたの、ご理解あるご協力によつて、振興基本計画に添つた諸事業も大方の目標を果すことができて、意を強くいたしておる次第でございます。厚くお礼を申し上げます。
さて、今年はダム関係の事業も、いよいよ本体工事に着手される見通しとなつており、ダム建設も本格化してまいります。それにつけても、ダム建設後の立村計画

の成否が、村政上の最も重大な課題となつてまいります。村長としての責務の重大さを痛感いたしておりますが、心を新たに、村民皆さんのご協力のもとに、しんげんに課題解決に取りくむ覚悟をいたしておりますので一層のご鞭達をおよせ下さるようお願いいたします。

よい村づくりをするためには、村執行部、村議会、ともにその責任と権限において、村民の要望に耳を傾けて、その志向する方向を大局的に判断し、対処していくことは申すまでもありませんが、村民の皆さんにおかれても、中津江村百年の立村の新しい出発であるというお心もちで、公私の別を明らかにし、希望と理想に燃えて立ち上つていただきたいと切にお願いいたします。ダムによる大量の難村者を見るだけでなく、青少年の相つぐ村外への流出も悲しむべき傾向であります。このことも今日の産業、経済の流れ

の上に生ずるやむを得ない動向であるとはいへ、郷土に対する愛情を育て、それをつなぎとめるだけの条件を整備し、将来に希望をもたせる村づくりの努力によつて、ある限度までは防ぎとめることができるものと思はれます。そのためにも、全村民一丸となつた村づくりの推進にご努力を願う次第であります。

ともあれ、新しい年、新しい年度である昭和四十一年は、思へば実に多事多端の年であります。村としても、産業基盤の整備充実のために、あらゆる施策と努力を傾注いたすことは勿論であります。ダムに関連する諸問題、ことに公共補償の改良、または開設、国有林野の払い下げ問題、教育の振興、等々の山積する諸問題に対して、体当りの決意をもつて対処する覚悟であります。ご理解あるご協力を切にお願いいたします。

編集室

▼ 村民の皆さん、新年おめでとうございます。
一九六六年、昭和四十一年のお正月を、皆さんもお元気で迎えにいられたことでしょう。昭和元年に生まれた方々は四十歳の不惑をこえられて、人生でもつとも円熟する年代にはいり、昭和二十年に生まれた方々は成人の日を迎え、社会人として、前途に輝かしい人生が待ち受けております。わたくしたちは、この昭和四十一年を、ほんとうに意義ある、充実した年とするよう努力しましょう。

▼ 十五日は成人の日、終戦の混乱期に生を受け、苦しい戦後を生きぬいて生い育つた若人たちに栄光が輝くよう、心からお祝いたしたものです。
▼ 六日は小寒で二十日は大寒。一年中でいちばん寒いといわれる日です。しかし、一月は冬とはいつても初春というくらいです。若草の季節もま近か。ファイトで寒さをのりきろう。

新年賀

一同 議員 川津 冬一
村 役 高山 鶴吉
収入 役 長谷部 秀丸
教育 長

臨時村議会

補正予算などを可決

四十年十二月十四日に開かれた村議会は、五議案を審議、原案通り可決した。以下各議案別の主な内容

「第三十七号議案」 消防組織法により消防団の設置等を定めたもの。

「第三十九号議案」 日田郡公平委員会委員を

「第四十号議案」 固定資産評価審査委員の委員を選任したもので、委員は、猪野司氏、塚本義人氏、中元直氏。

「第四十一号議案」 本村四十年年度一般会計の補正予算で、才入では繰越金補正額三、三七八千円。

才出では第五分団の消防ポンプの二四万円、三限高校林工高校建築寄附二二六千円、この主なもの。

津江村川原、合谷辰夫氏。

暖かい小さな愛の手

歳末たすけ合い 運動によせて

昨年の十二月二

十一日、本村役場 この運動の主旨は、社会の
に、貧しい人のた 中では貧しくお正月を迎え
めに使つて下さい ても、おもちの一つも食べ
と、一万三千四百 られぬ人や、交通事故、火
七拾八円のお金が 災、台風などの不慮の災難
届けられた。 に合つた人がたくさんいる

このお金は、本 が、私したちは無事にお正
村内の各小、中学 月を迎えることができる。
校の生徒および先 私したちもけつして豊かで
生方から集められ はないが、出す人と受ける
たもので先に開か 人の違い。わずかずつでも
れた各小中学校の と、小学校一年生の小さな
校長、教頭会の席 手から、多くもない小使
上で決められた「 の中から、各学校の生徒た
歳末たすけ合い運 ちの心の結晶を示すとも
動」のお金であつ に、そういった運動の中か

ら子供たちも、より一層社
会への感心をうながそうと
いうのがこの運動の主旨で
あつた。

その結果、野田小学校が
千二百四十五円、川辺小学校
二千六百六拾二元。丸蔵小
学校千五百七拾五円、鯛生
小学校二千五百三拾四円。
中津江中学校三千八百七拾
七円。鯛生中学校千五百八
拾五円。計一万三千四百七
拾八円もの心のこもつたお
金が集つた。

村当局も大へん感銘し、
子供たちの「まごころ」を
けがすことがないようにと
社会福祉協議会に寄託いた
しました。

このお金がどのように使
かわれたかは、編集上の時
間のつごう上次号にまわし
ますが、子供たちの清らか
で暖いこの心は、受ける人
たちの疲れた心を勇気づけ
ないではないでしょうか。

初春のおよろこび
申しあげます

役員一同
職員一同
農協職員一同
森林組合職員一同



大分国体まで残すところあと二百八拾
日余り、県民である私したちは、五十年
に一度のこの「第二十一回国民体育大会
」を、清新なスポーツの祭典として成功
させるためには、国体に対する認識を新
たにするともにも一致協力して前進する
ことが必要です。

大分国体で新しい県民像を

本県木下知事は、「大分国体がたんに
体位の向上と明朗な精神の
養成をめざすだけでなく、
新しい県民の生活態度をつ
くる機会となり、さらに大
分国体によつてつくられた
県民の協力一致の気持ちで
豊かな大分県を築きたい。
」と抱負は大きく、剛健国
体々のキャッチフレーズを
掲げている。

▼スポーツとは、人間の
能力の限界に人間がいども
うとするものである▼はで
やかなお祭り騒ぎ的なものでなく、それ
は真実明朗な祭典です。

各種の競技場は大分市を初め、各所に
分れていますが、幸い本村からも近い日
田市で漕艇、弓道、バドミントンの三種
目の競技が行こなわれることになつてお
り、全国の各地からたくさんの方が集る
ことが予想されます。

そのようなことから、私したちも各地
の人と接する機会（道を尋ねられたり、

いよいよ大分国体の年

いよいよ大分国体の年 国体開催地の県民らしく

その外いろんな質問を受ける）があると
思いますが、国体開催の県民として、は
ずかしくない態度で接したいものです。

誠意に飾りけは不必要

私したちだれもが、一度か二度は経験
したことはあるが、各地に旅行したと
き、地元の人々の態度が、その地のイメー
ジや思い出までも変えてしまうことがあ
ります。ある時、旅先で私の質問に車の
運転手は、飾り気のないお
国なまりの混じつたことば
で、無造作に説明してくれ
たことがあつたが、私しに
はその地とともに何とも心
よく印象づけられたことを
思い出す。人の暖かさ、人
の善さ、誠意などというも
のは、実は飾り気のないそ
ういつた所に存在するの
も知れない。そしてこの誠
意こそ実は、大分国体を成
功させる源であり、国体参
加の全国選手が精魂を傾けて全力発揮が
できる場を提供する者として、また全国
の人々を受け入れる者としての義務かも
しれない。県民一同、われわれが暖たか
い心のもつた受け入れ態勢を確立しな
ければ、「大分国体」を成功させること
は望めないものである。そしてこの機会を
、教育に県民運動に、人づくりに郷土づ
くり、生かせるだけ生かさなければなら
ないし、大分県での国体を、大分県人
の誠意の花として見事に咲かせたい。

よつなづい

一月の解説

一月の和名は「むつき」といいます。年の始めの月として、一家や隣人が互いに睦みあう月という意味からこの呼び名があるといわれています。

一説には、陰暦の一月には、稲の実を水にひたしてそろそろ春の種まきの準備をしたところから「実月」(むつき)というともいわれています。和名の呼び名が、天地自然の現象をとり入れていることから、この説が正しいとする人もおられます。わが国では明治六年の一月から太陽暦の制度を採用しました。それまでの陰暦は前年の明治五年十二月二日で廃止されています。ことはまた日本紀元で二、六二六年となり、明治以来九十九

年、大正以来では五十五年となります。

ななくさがゆ

正月七日の朝に「ななくさがゆ」をたいて祝う風習は古くから行なわれた、われわれ日本人の年中行事の一つです。最近はこの行事もだんだんすたれてきました。「ななくさがゆ」などは、日本人独特の祝いごとの一つとして受けついでいきたいものです。

ななくさがゆの風習の始まりは、平安朝時代からといわれています。当初は七草でなくて、七つの穀物(いね、むぎ、まめ、あわ、あずき、きび、こむぎ)であつたようで、これらをかゆにしたものでした。それがいつしか七草(せり、なすな、はこべ、ははこぐさ、おおぼこ、すすな、だいこん)などの野菜や野草にかわつたのです。

その九

中びなの飼育管理

中びな時代は、将来経済鶏としての基礎を作る非常にたいせつな発育期です。飼養管理については、十分に注意しなければなりません。

中びな期に失敗すると、どんなに幼すう期の育ちが良い鶏でも、価値のない鶏となつてしまいます。せつかくの努力も、水の泡に帰するわけです。

ひなも五十日を過ぎるといちおう一人立ちのできる「鶏」としての取り扱いをうけます。たとえば、長距離の輸送にも耐え得るし、広い運動場に放し飼いにされて風雨にさらされても、平気でいられるようになり、幼すう期より抵抗力が強くなつたことは確かです。しかし、安心はできません。幼すう時代のように狭い育すう器の中で保護されてきた時代とちがつて、汚れた運動場に放し飼いにされ、風雨にさらされると抵抗力の弱いものは、どうしても病気にかかり易くな

り易い病気はたくさんありその主なものはジフテリア、回虫病、鶏痘、白血病、黒頭病などがあります。このようなかたは、一般には幼すう期の死亡率よりも、中びな期の方が高くなつています。中すう期の管理の中で一番重要なことは、いろいろの病気の予防ということになり、予防ばかりに気をつかり、鶏の保護ばかりしていたのでは、将来あらゆる悪状況や、環境の

養鶏の技術と管理

いようなりつばな鶏、つまり経済鶏を育てあげていくことは望まれません。ここに中すう期の鶏管理の「むずかしさ」があるわけです。経済鶏としての資格の中には、「丈夫なこと」が一つの必要条件とされています。ちよつとした気候の変化や、また飼の变化にも、すぐに影響を受けるような鶏や、病気にかかり易い抵抗力の弱い鶏では、実利鶏とはいえず、経営が成り立つはずがありません。そこで中びな仕上げの要点(かん所)はどこにあるかといえ、中びなを飼養するさい、病気にかけないように保護を加えるだけではなく、いろんな環境にも即応でき、抵抗力の強い鶏に育て上げることを忘れてはなりません。

新春初笑コーナー

(至言)

絶対に、荒々しくドアを閉めて出て行かないこと。また戻る必要がないから。D.H

経済高度成長

買物の包みをたぐさん抱えた婦人が連の婦人に、「儉約しては経済が成り立たない時代に住むことは

実にはばらしいことすね

「ホイフィールド」

漫画を連想しながら家をながめ、それから赤ん坊をながめて、夫が妻に「いつか、ここがみんな坊やのものになるんだよ、それしたら月賦を払うのはこの子だからね」バーンハート

「マーシャル時代」

テレビの監督が女優に、「もつと勢を入れて、もつと真実味を出して、これは芝居のせりふと違うんだ。マーシャルなんだから。」

レオ・ガレル

「実力以上に生活する方」

読んだことを記憶しておき、きといと思ふとき。うわさをするときの要領で。「あなたご存じ?」読んだことを自分自身に話しかけながら自分でこう返事する。

「まあ、まさか、」

「マー」

復雑な関係 中年の婦人が体重計の上で、「あら、まあ、きつと私しのカロリー計算器が狂つたんだわ。」



リーダーズ誌よりてん載